

【要旨】

（内政）

- 与党国民解放党（PLN）が、2014年大統領選に向けた党内予備選の日程を、党規定より早い2013年4月21日に実施することを決定。デサンティ候補はアラヤ・サンホセ市長陣営に参入。
- ジャシュ公共事業運輸大臣が持病の心臓病悪化により辞任。環境エネルギー省に「水・海洋」次官職が新設。
- 9月にニコヤ半島付近で発生した大規模地震に対して、チンチージャ大統領が先頭に立って対応。
- 各社の世論調査で引き続きチンチージャ政権への支持率が低下。

（外交）

- コスタリカがサンフアン河沿いで進めている道路建設に関し、7月2日、中米司法裁判所がこれを違法との判断を下し、これを受けコスタリカは、ニカラグアが議長国の間はチンチージャ大統領はSICA関連会合に出席しないとの対応を発表した。
- 8月10日から10日間、チンチージャ大統領は中国を公式訪問し、16日、同大統領は胡錦濤国家主席と首脳会談を行い、両国間の経済技術協力協定他各種合意を締結した。
- 8月19日から4日間、チンチージャ大統領は韓国を公式訪問し、21日、同大統領は李明博大統領と首脳会談を実施し、外交関係樹立50周年を祝福した他、将来的なFTA交渉開始に向けた枠組み作りを進めることで合意した。
- 9月27日、カスティージョ外相他中米諸国外相が、ニューヨークでクリントン米務長官と中米の治安状況を分析するために会談した。

【本文】

I. 内政

1. 2014年大統領選挙関連

（1）与党PLN予備選日程の確定

7月28日、与党PLNの党大会が開催され、2014年大統領選の党内予備選を2013年4月21日に実施することが承認された。これまでの党規定では選挙の前年の6月に実施されてきたが、ロドリゴ・アリアス元大統領府大臣が、予備選の時期を前倒して党地方代表選との同日開催を提案し、その他の党内各候補の了承を得た日程案が今回の党大会で了承された。2013年3月にサンホセ市で中米選手権を主催するジョニー・アラヤ市長にとって前倒しは不利に働くと見られ、同市長と予備選を争うアリアス氏の戦略との見方もある。

(2) PLNデサンティ候補のアラヤ陣営参入

9月18日、与党PLNの予備選候補であった企業家（元国会議員）のアントニオ・アルバレス・デサンティ氏が、立候補を取りやめてアラヤ・サンホセ市長陣営に入り、同市長の選挙参謀長を務める旨発表した。デサンティ氏は「アラヤ候補はエネルギッシュで、公約を守る信頼できる人物であり、彼ならPLNを再興し、コスタリカが必要とする社会経済発展を推進できる。」と述べた。デサンティ氏は、アラヤ候補がPLNの大統領予備選に勝利した暁には、2014年の国会議員選挙にPLNのサンホセ比例代表選挙区から第一位候補として立候補する予定。

(3) メンドサPAC議員の大統領予備選立候補表明

9月28日、フアン・カルロス・メンドサPAC議員は、次期大統領選に向けたPACの党内予備選に立候補する旨表明した。メンドサ議員は党創設者であるオットン・ソリス氏のリーダーシップを引き継ぎ、昨今対立が鮮明化している党内融和に努めるとした。同議員の立候補表明により、PAC大統領予備選候補者は、クラウディオ・モンヘ議員及びルイス・ギジェルモ・ソリス氏を加えて3人となった。

2. 内閣人事

(1) 新スポーツ大臣の任命

7月17日、新スポーツ大臣にウィリアム・コラレス氏が任命された。同氏は法律及び運動教育を修学しており、これまでスポーツ局長やコスタリカ・バレーボール協会会長を務めるなど、国内外のスポーツ分野で実績のある人物である。当面の大きな業務としては、2013年3月の中米選手権と2014年の17歳以下女子サッカーワールドカップがある。

(2) 水・海洋担当次官職の新設

8月16日、カストロ環境エネルギー大臣は、同省に「水・海洋」担当次官職を新設する旨発表した。現在住宅省の次官ポストが一つ空席になっており、これを同新次官ポストに使う見込み。カストロ大臣によると、既に同次官にはチャベス（Jose Lino CHAVEZ）環境行政裁判所長が内定しており、9月1日から就任予定。

(3) ジャシュ公共事業運輸大臣の辞任

8月24日、持病の心臓病が悪化して入院し、一時的に大臣職を離れていたジャシュ公共事業運輸大臣が辞任した。同大臣は69歳で、6月5日に大臣職に就いたばかりであった。後任の大臣は未定で、当面はリベラ次官が大臣代行を務める。

3. フィゲールス元大統領による国家プランの発表

7月23日、フィゲールス元大統領（PLN、94年～98年まで大統領を務めた）が、国家の方向性に関する国民的議論を喚起するための「国家プラン：コスタリカの道（Via Costarricense）」を発表した。同元大統領は市民の側から政策提言することを目的とし、各セクターを代表する9人から成る理事会を創設し、Via CostarricenseのHPに一般国民から寄せられた意見を同理事会の議論に反映する等の方針を示した。このプランは数ヶ月前から入念に準備され多くの人に関与したことから、フィゲールス元大統領の次期大統領選挙に向けた選挙公約との推測もあったが、実際には大統領選挙に関する話は一切出なかった。

4. 震災への政府対応

9月5日にニコヤ半島近くを震源とするマグニチュード7.6の大規模地震が発生したことを受け、チンチージャ大統領は先頭に立って対応する姿勢を見せた。地震当日に二度記者会見を開いて被害状況や政府の対応を発表した他、6日は被害の大きかったグアナカステやプンタレナスを訪問し、被害状況を確認し被災者を元気づけた。また被害を受けた教会や病院を視察した後、地震の規模に比べて被害がそれほど広がらなかったことを確認した大統領は「被害を過小評価してはいけないが、これは奇跡だ。大災害になってもおかしくなかった。コスタリカは神の祝福を受けた土地である。」と述べ、地方政府、警察、救急隊等の現場対応は完璧だったと賞賛した。また、政府としてまずは土砂崩れや橋梁の落下によって孤立している人々への支援を優先し、一部で停止している水や電気の復旧に努めるとした。更に現場に同行した外国メディアに向けて、「コスタリカはこの状況を乗り越えるので、是非観光に来て欲しい。」と訴えた。

5. 世論調査

(1) UNIMER社の調査

7月5日～11日の間に1,200人を対象に実施。

●チンチージャ政権の施政

非常に良い・良い：13%（前回4月は17%）

悪い・非常に悪い：53%（同44%）

●与党PLNの次期大統領選予備選候補者支持率（PLN支持層限定）

ジョニー・アラヤ・サンホセ市長：23%（前回19%）

ロドリゴ・アリアス元大統領府大臣：22%（同16%）

ホセ・マリア・フィゲールス元大統領：18%（同21%）

アントニオ・アルバレス・デサンティ元国会議員：13%（同14%）

(2) CID-GALLUP社調査

9月21日～30日の間に1,224人を対象に実施。

●チンチージャ政権の施政

非常に良い・良い：33%（前回5月は38%）

悪い・非常に悪い：63%（同58%）

●与党PLN次期大統領選予備選候補者支持率（PLN支持層限定）

ジョニー・アラヤ・サンホセ市長：32%（前回32%）

ロドリゴ・アリアス元大統領府大臣：25%（同21%）

ホセ・マリア・フィゲーレス元大統領：20%（同23%）

II. 外交

1. マルチ関係

（1）バチレ国連女性機関事務局長の当国訪問

バチレ国連女性機関事務局長（元チリ大統領）が、9月10日、当国を訪問し、チンチージャ大統領と女性の政治・経済面での地位向上、女性に対する暴力の予防、子供のセーフティー・ネットワークについて会談し、カルタゴ市の子供のセーフティー・ネットワークの施設を訪問した。また、同事務局長は、中央銀行で開催された女性起業家フェアに出席した他ビジャヌエバ最高裁長官代理、最高裁裁判官と女性に対する暴力予防について会談、更に、9月5日にコスタリカで発生した地震の被災者に対する国連事務総長のお見舞い状をチンチージャ大統領に手交した。

（2）国際平和デー

9月10日、コスタリカのジュネーブ代表部が主催して、ジュネーブの国連代表部の高官が出席の下、国際平和デーを祝した。右においてトカエフ在ジュネーブ国連事務所長は、コスタリカの平和と軍縮への取り組みに対し謝意を表明した。式典は、潘基文国連事務総長の世界中の戦闘員が武力紛争を平和的解決に解決するように願うメッセージのビデオで開会し、右メッセージにおいて、同事務総長は、「持続的将来のために持続的平和を」というスローガンを掲げ、武力紛争は、持続的開発の基本的支柱を破壊すると述べた。右式典で、デンゴ在ジュネーブ国連コスタリカ代表部大使は、「国の安全は兵器や軍隊によってではなく人間開発を通して実現するものである。こうした理由により、コスタリカは軍事費をなくし、社会投資に向けた。本日の国際平和デーにおいて、兵器への投資を最小限に留め、平和への道のために投資することを呼びかけたい。」旨述べた。

（3）カスティージョ外相の国連総会出席

（ア）9月24日、カスティージョ外相が国連総会の一環の「法の支配」に関するハイレベル会合に出席し、同外相は、コスタリカは、開発並びに国民と国家が平和的共存をはかるための重要要因である民主主義と人権推進を礎にした法の支配を形成しており、将来に

わたってこれを醸成すべく国連に協力し、また、国連事務総長が提出した「国内及び国際的次元における法の支配を強化するための行動プログラム」を歓迎する旨演説した。

(イ) 9月26日、カステージョ外相が国連総会開催を機にイタリア国連代表部で開かれた安保理改革に係るコンセンサスグループの会合に出席した。同会合には、カステージョ外相の他、アルゼンチン、カナダ、コロンビア、スペイン、インドネシア、イタリア、マルタ、メキシコ、パキスタン、サンマリノ、韓国、トルコの外相もしくはハイレベルの代表が出席し、国連安保理改革に関する政府間協議の現状と今総会中の方針について分析した。カステージョ外相は、席上、国連安保理の総合的な改革を為し得るためには、建設的、協力的かつ柔軟性の精神を維持し、最善の改革は広範な支持を得た改革であると述べた。

(4) コスタリカの IAEA 運営委員会加入

7月11日、コスタリカ外務省において、カステージョ外相、クルス科学技術大臣及びエニング IAEA 事務次長は、2012年から2016年の期間、IAEA がコスタリカに対して原子力に関する技術協力を実施する旨の取り決めに署名した。同外相は、IAEA とコスタリカは原子力の平和利用の観点で一致しており、原子力エネルギーは、発展のための手段であり、コスタリカは世界の平和及び安全のために原子力を利用する旨述べた。

2. 中米関係

(1) ニカラグア

(ア) コスタリカがサンフアン河沿いで進めている道路建設に関し、7月2日、中米司法裁判所がこれを違法との判断を下した。これを受けコスタリカ政府はコミュニケを発表し、この判決を断固拒否し、ニカラグアが議長国の間（本年7月1日から12月31日まで）はSICA 関連会合に出席しないとの対応を発表した。

(イ) 7月4日、カステージョ外相は、コスタリカはSICAのメンバーとして活動を継続するが、当面はSICA 関連機関の会合についてはテーマ及びコスタリカへの利益を考慮しながらその都度出席レベルを決定していくこと、原則ニカラグアが議長国の間、チンチージャ大統領は首脳会合に出席しない旨声明を発出した。

(ウ) 8月6日、ハビエル・サンチョ前外務省儀典長が正式に駐ニカラグア大使に任命され、同8日にマナグアで開催された SICA 首脳会合には特派大使として出席した。

(エ) ニカラグアは、8月8日にマナグアにおいて、中米和平合意25周年を記念して、SICA 特別首脳会合を開催した。右会合には、グアテマラ、ベリーズ、エルサルバドル、ホンジュラス、パナマ、コスタリカ及びドミニカ共和国が招待された。コスタリカ政府はニカラグアとの国境沿い道路建設問題に絡んで、ニカラグアが議長国を務める本年後半のSICA 首脳会合へのチンチージャ大統領の欠席を決めていることから、同首脳会合には代わりにカステージョ外相が出席し、代表団としてサモラ内務公安大臣、ロベルシ外務

次官、ボラスキ大統領府次官（麻薬担当）も出席した。

（オ） 9月28日、コスタリカ政府は、駐ニカラグア・コスタリカ大使の任命に伴い、マナグアの在ニカラグア・コスタリカ大使館を1億6千万コロン（米貨32万ドル）で国有財産とすることを決定した。ロベルシ外相代理によれば、同大使館国有化は、これまで政府予算の節約によって蓄えた財源から支弁するとの由で、同外相代理は、「在ニカラグア・コスタリカ大使館の国有化の決定は、治安及び品格上の理由から下された。これによって、大使館のハンドリングが円滑になり、自前の警備システムを採用することができる。更に、経済的にも借料を支払う必要がない。」旨述べた。

（2） パナマ

（ア） 7月13日、チンチージャ大統領及びパナマのマルティネリ大統領が、シクサオラ陸橋の開所式に出席するために両国国境で会談し、また、7月18日にチンチージャ大統領が、パナマで開催されたインターネットの使用から児童を保護する目的の国際フォーラムに出席した。

（イ） 7月19日、コスタリカのゴンサレス外務省対外政策局長及びパナマのエスピノサ外務省対外政策局長はパナマで会談し、両局長は、2013年はコスタリカが上半期、パナマが下半期にSICAの各々議長国になるので、SICAの体制を改善したいとして意見の一致を見た。また、ゴンサレス局長は、両国は潜在性を秘めているので、両国の政治、社会、通商、文化、協力などの全ての分野での関係強化は両国民に被益する旨述べた。更に、両国は、コスタリカ・パナマ連携委員会（両国外相が座長）が有する連携協定の重要性を強調した。

（3） グアテマラ

9月13日、チンチージャ大統領は、当地を訪問したグアテマラのペレス大統領と会談し、今後とも麻薬の不処罰について議論を継続していくことを約束すると共に、麻薬の消費は、公衆衛生の観点から分析することが必要である旨述べた。両大統領は、治安面の情報交換、研修、訓練について両国間で協力していくことで意見の一致を見た。また、ペレス大統領は、チンチージャ大統領に対し、コスタリカの人類文化遺産石球公園にグアテマラ人の専門家を派遣することを約束した。更に、ペレス大統領は、チンチージャ大統領を今年12月21日にグアテマラに招待し、マヤの文明歴が終末を迎え新たな時代の幕開けのイベントを共に祝いたい旨述べた。

3. 米国関係

9月27日、カスティージョ外相他中米諸国外相が、ニューヨークでクリントン米務長官と中米の治安状況を分析するために会談した。同会談では、双方は中米諸国のイニシアティブによる4つの分野（犯罪撲滅、暴力予防、治安関係機関の体制強化、刑務所のリハ

ビリ・社会更正・安全な運営) に則して今日まで得られた成果及び国際協力による裨益効果を分析した。コスタリカについて、クリントン米務長官は、警察能力、司法強化、法の適用能力が向上し、右によっていくつかの犯罪関連指数が減少したことを評価した。また、同国務長官は、中米諸国の殺人率が12%減少したことを評価する一方で、中米地域の一般犯罪率は増加している旨言及、中米地域の治安戦略に対する十分な財政支援を今後とも継続していくことを約束した。

4. アジア関係

(1) ベトナム

(ア) 7月4日、ロベルシ筆頭外務次官は、ベトナムのグエン外務次官と会談し、両外務次官は、外交及び公用旅券所持者の査証相互免除協定に署名した。また、近い将来、クリーン・エネルギー、気候変動、貿易、投資、麻薬対策、国際機関における選挙協力などの両国間協力の可能性について協議した。また、ロベルシ外務次官は、当国の環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)及びAPECへの加盟についての関心を表明した。一方、ベトナムのグエン外務次官は、ベトナムのWTOへの近い将来の加盟についてコスタリカの支持を要請し、また、高付加価値コーヒー生産について両国の協力メカニズムについて検討していくことへの関心を表明した。

(イ) 7月5日、ロベルシ外務次官は、ハノイで開催されたベトナムとラ米とのビジネス及び投資に関する閣僚級会合に出席すると共に、コスタリカはベトナムをはじめとするアジア諸国との関係強化を望んでおり、これまで韓国、日本及びインドとの関係強化を図った旨述べ、更に、コスタリカはWTOの加盟国、APECのオブザーバー国で、OECDへの加盟を申請しており、TPPへの加盟も望んでいる旨述べた。

(2) 中国

(ア) 8月13日、チンチージャ大統領は上海において中国訪問を開始した。大統領はまず、中国国際貿易促進委員会(CCPIT)及びコスタリカ貿易省が主催した、貿易・投資・観光に関するフォーラムに参加し、15以上の中国企業関係者に対しコスタリカの投資先や観光地としての利点を訴え、また両国間のFTA発効1周年を祝った。その後大統領は企業関係者と個別会合を行い、その中で、中国のGeSolar社とコスタリカのGreenersys社との間で、コスタリカにおけるソーラーパネル設置に向けた合意が締結された。また大統領は、上海在住のコスタリカ人青年と会合を持つと共に、韓正・上海市長とも会談し、貿易・投資、再生可能エネルギー、交通及び教育について意見交換した。この会談において大統領が、上海におけるPISA(OECDの学習到達度調査)のレベルの高さに言及したところ、同市長より、教育関係者のコスタリカ訪問につき提案があった。

(イ) 8月14日には江蘇州にある、中国とシンガポールが共同で設立した蘇州工業園区を訪問した。大統領は、蘇州工業園区の経済特区モデルは、開発の遅れている地域の発展

を促すものとして参考になると述べ、コスタリカにおける経済特区設立にも関心を示した。また大統領は、ハイブリッドのバスを製造しコスタリカにも輸出している Higer 社の工場も視察した。

(ウ) 8月15日、チンチージャ大統領は北京において、中国国際貿易促進委員会 (CCPIT) 及びコスタリカ貿易省が主催した、貿易・投資・観光に関するフォーラムに参加し、投資先・観光地としてのコスタリカの魅力を訴えた。中国政府からコスタリカ政府への警察学校贈与が合意された。同学校建設には約25百万ドルを要する見込みで、ラ・リタ・デ・ポコシに建設予定。

(エ) 8月16日、チンチージャ大統領は人民大会堂において胡錦濤国家主席と首脳会談を行った。両首脳は、近年の両国間の治安、インフラ、貿易・投資、教育及び文化関係において顕著な進展があったことを確認し、現在両国関係が新たな段階に入っているとの認識を共有した。また、以下の合意が締結された。

- (i) 中国政府及びコスタリカ政府間の経済技術協力協定
- (ii) 中国政府からコスタリカ政府へのパソコン提供に関する交換公文
- (iii) 中国農業部及びコスタリカ農牧省間の農業協力に関する覚書
- (iv) 中国衛生部及びコスタリカ保健省間の協力協定
- (v) コスタリカ航空局と中国航空局間の覚書
- (vi) 中国国際貿易促進委員会及びコスタリカ貿易促進機構間の覚書
- (vii) 中国開発銀行及びコスタリカ貿易促進機構間の枠組み合意
- (viii) 中国石油天然気集団及びコスタリカ石油精製公社間の枠組み合意
- (ix) その他、中国はコスタリカ人学生向け中国留学奨学金対象を今後5年で400人に倍増する旨発表し、また国道32号線（リモンーサラピキ間）建設への関心も示した。

(3) 韓国

(ア) チンチージャ大統領は、8月19日から22日まで韓国公式訪問を実施した。8月20日には韓国企業関係者との会合に出席してコスタリカへの投資誘致を行い、また、韓国外国語大学で名誉博士号を授与された。

(イ) 8月21日には李明博大統領と首脳会談を実施した。両首脳は外交関係樹立50周年を祝福した上で、この間の両国の友好協力関係強化に満足の意を示し、相互利益のための更なる協力の拡大・深化を進めることで合意した。また、将来的なFTA交渉開始に向けた枠組み作りを進めることを合意し、10月には韓国代表団がコスタリカを訪問して、本件について協議する予定。また首脳会談において、チンチージャ大統領がコスタリカのOECD正式加盟への支持を要請したところ、李大統領から「OECDでコスタリカとお会いしたい。」との発言があった。他方で李大統領はチンチージャ大統領から、北朝鮮のミサイル・核兵器開発問題への協力を取り付けた。

(ウ) その他、チンチージャ大統領は朴ソウル市長からソウル名誉市民を授与され、ソウ

ル国立大学病院を訪問し、カルテのデジタル化について視察した。

(エ) 更に、チンチージャ大統領同席の下、コスタリカ大学と韓国国際交流財団が覚書に署名した。これは学術文化交流のための教員・学生の相互派遣が狙いで、将来的にコスタリカ大学において韓国の社会・文化に関する講義を設けることを目的とし、まずは韓国語の授業を開始する予定。更にコスタリカ大学としては、ナノテクノロジー、胃がん、近代哲学、映画などの講義への協力も得たいとの希望を有している。

6. 北欧関係

第67回国連総会のマージンで、9月26日、カスティージョ外相他SICA加盟8カ国の外相は、北欧諸国5カ国（デンマーク、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド）の外相と会合した。右5カ国のうち、デンマーク、ノルウェー及びスウェーデンの中米に対する協力プロジェクト総額は、約12百万ドルに上る。今回の両地域間会合は初の試みで、今後も国連総会の際に定期的開催されることになった。カスティージョ外相は、コスタリカは国連の枠組みにおける武器の商業取引に関する条約の承認を得るために、根気良く働きかける考えである旨北欧諸国に訴えた。また、双方は、医療、教育などの基本的な公共サービスに国民がアクセスできるよう努力していく国家というビジョンについて意見の一致を見た。

7. その他（外務省人事政治任命問題）

6月27日、カスティージョ外相は、カストロ前外相時代に政治任命されたソラノ在京大公使参事官を含む在外9公館に勤務している10名の与党国民解放党（PLN）関係者の外交官を解任する旨述べた。同リストの中には、ナーバス PLN 幹部の子息である駐伯コスタリカ大勤務のナーバス氏やチンチージャ大統領の選挙キャンペーンを担当した PLN のジャーナリストであるロペス氏やヌニェス氏も含まれている。これについて、カスティージョ外相は、「右10名の後任は、公募で選抜したいが、必ずしも職業外交官が同ポストに公募するとは限らないので、その際には、法律の条件を満たす人物、職業外交官以外から契約採用することになるだろう。」旨述べた。なお、10名のリストは次の通り。

- (1) Francisco ABELLAN (駐オーストリア大使館)
- (2) Max CAMACHO (駐ロシア大使館)
- (3) Ligia FUENTES (駐シンガポール大使館)
- (4) Ana FUENTES (駐カタル大使館)
- (5) Orlando GUZMAN (駐イタリア大使館)
- (6) Iriabel LOPEZ (駐カタル大使館)
- (7) Andrez NAVAZ (駐伯大使館)
- (8) Maricruz NUÑEZ (駐インド大使館)
- (9) Marco PERAZA (駐パラグアイ大使館)

(1 0) Rodolfo SOLANO (駐日大使館)